

参考(事故予測等システム・サービスについて)

期待するシステムの機能

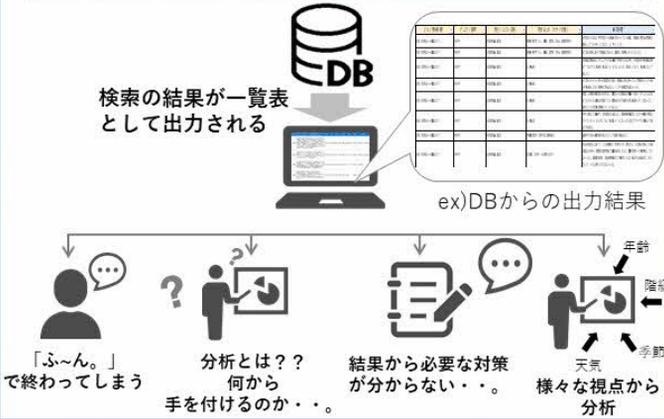
- ①ヒヤリハット情報の効率的な解析及び分析を行う機能
- ②事故情報も収集でき、事故発生予測や再発防止対策、未然防止対策に活用できる機能
- ③消防署等が実業務に活用しやすい資料(危険予知や事例集)等を作成できる機能



現状

【課題】

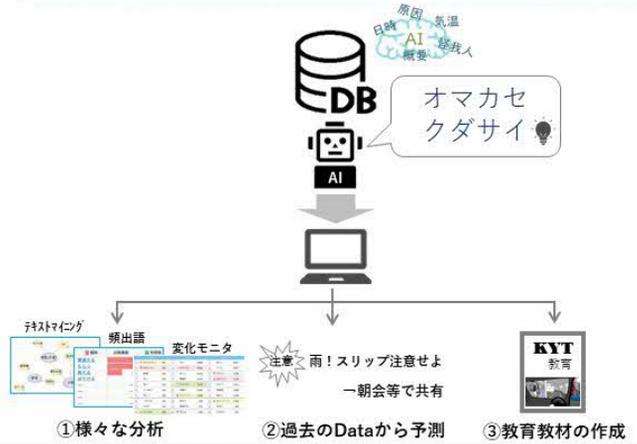
- ・検索結果がズラッと出て来るだけでは読み解けない。
- ・分析手法が分からない。
- ・分析してみたが、結果をどう生かしたら良いかわからない。
- ・職員が様々な視点から手作業で分析し、事故の未然防止対策を検討しなければならない。



今後

【解決策】

データベースに生成AI等(文書生成、イラスト生成、音声生成)の先端技術を導入し、事故の発生予測と事故の未然防止、再発防止に活用する。



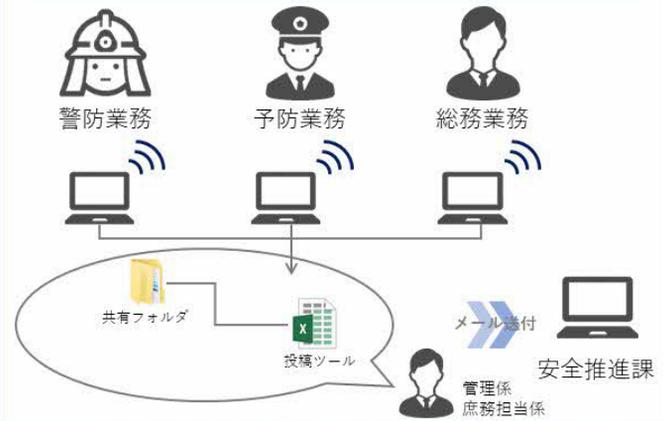
期待するシステムの機能

- ④職員全員がいつでも気軽に投稿でき、運用管理を容易に行うことができる機能

現状

【課題】

- ・投稿フォームが格納されている共有フォルダを開かなければ投稿できない。
- ・共有フォルダは、誰かが開いていると入力できない。
- ・1人に1台PCが配置されていない。



今後

【業務処理負担の軽減】

- ・ヒヤリハット情報の投稿から安全推進課への送付、データベースへの登録の流れをシステム化。
- ・各所属内での情報共有をシステム化。

【利便性の向上】

- ・各自が所有するスマートフォンで投稿可能。



ヒヤリハットデータベースに登録されているヒヤリハット情報例

入力日	事象発生日	事象内容	いつ(発生時期)	どこで(場所)	何を(している時)	何があった(ヒヤリ分類)	本人が考える背後要因	階級	所属
20●●年●●月●●日	20●●年●●月●●日	火災現場に安全管理隊として出場し、火元建物の入り口上部の外壁にひび割れを2か所発見した。活動を継続していく中で、ひび割れが何ミリか大きくなっていることに気づき進入規制をかけた直後に外壁のパラベットが崩落した。けが人はなし。	中期(放水、進入開始から延焼防止まで)	建物敷地内(共用部、ベランダ等含む)	安全管理等	上部からの落下物(瓦、外壁、室外機等)	危険性の過小評価・予測の幅の狭さ	消防司令補	●●署
20●●年●●月●●日	20●●年●●月●●日	ポンプ機関員が火災指令前に、火災予告が入り指令端末で予告火点マークを見ていた。その後指令が流れ出場しようとした際、実際は予告で表示された指令番地ではなく異なる指令番地だった。機関員は指令書の番地を確認せずに出場しようとしたが、周りにいた機関員が教えてくれ誤出場することなく出場ができた。	出場(覚知から到着まで)	庁舎内	出場準備、着装	誤出場、所在・火点等の誤り(車両運行に関する事象を除く。)	先入観・思い込み	消防司令補	●●署
20●●年●●月●●日	20●●年●●月●●日	救急資器材を傷病者宅に忘れそうになった。複数の人が対応していたため、車内に資器材を収納してくれたと勝手な認識をしていた。	車内収容から発見まで	路上	傷病者搬送	資器材の亡失(一時亡失を含む。)	コミュニケーション不足によるもの(隊内・傷病者・病院関係者等)	消防司令補	●●署